

日本教育心理学会第43回総会 自主シンポジウム
2001年9月7日 名古屋国際会議場

学びの科学の現在

中原 淳（メディア開発センター）

村山 功（静岡大学教育学部）

三宅 なほみ（中京大学情報科学部）

Learning sciences

- CSCL '95; '97; '99; '02;
- ICLS '91; '96; '98; '00; '02;
- Euro-CSCL '00;'02-3;

学びの科学

- 学びのプロセスの認知的分析
- 研究成果＋支援システム

- 人の学びの質を上げるための理論作り
- 具体的な学習目標を上げ、結果を評価
- 実践の場で起きたことのプロセス分析

学びのプロセス重視

- 学習者自身による知識構成
- 日常的学び
 - 学びの目的を「日常化」する
- 協調的学び
- 適応的学び
 - 適応的エキスパートへ

テクノロジーによる支援

- 認知過程の外化記録保持
- 外化記録の共有、比較吟味
- 知識の作り直しとその記録保持

問題点

- 規模が大きくなると面白くない
- 規模を大きくしようとすると、運営が大変
- 評価方法が分かり難い
- 実践の積み重ねで終わる
- 理論構築の目処がない